

まちづくり ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>

137号

2012年1月10日



ときわ台の景観を守る会

ときわ台まちづくり委員会

代表 鈴木博之 近藤洋子

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

協力金振込先 郵便局00110-3-739728 ときわ台の景観を守る会

○ 藤和マンション行政訴訟は 上告せず

藤和マンションの行政訴訟については、12月、弁護士からの説明を受け、原告会議での話し合いを持って、上告はしないことに決定しました。もちろん棄却は納得できません。しかし、今の司法・行政の状態では、最高裁でも、他の幾多の事例と同じように扱われるだけという結果が見えているからです。

私たちはできるだけことはしました。これからは必要に応じて常盤台の街のために戦うべき時には戦うでしょう。

タカラレーベンのマンション問題以来、足掛け9年に亘る二つの裁判にご協力くださった方々、お疲れ様でした。そして有難うございました。何度もの署名運動、資金援助、裁判傍聴など、様々な形でご協力いただき、感謝に耐えません。皆様のおかげで連続した二つの裁判を乗り切ることが出来ました。こんな街は他にはないと思います。

私たちの運動は反対するためだけに始まったわけではありません。本当のまちづくりはこれからです。皆が誇りを持てる常盤台となるよう、一緒に協力しましょう。

○ ロータリー花壇の手入れ

嬉しい姿を見かけました。駅前の花壇はいつも植えっぱなしで、折角の可愛いパンジーも、冬の寒風の中、雨が何日も降らなくてもだれも水遣りなどせず、枯れてしまうのではと置いていたところ、Yさんがひとりで水をやっていました。自宅からホースを持ってきて、好きな時にやることにしているそうです。仕事を終えたので、自由な時間を持てるようになったとか。第二の人生が充実していくことでしょう。

○ 「景観ネット」常盤台に出張

「景観市民全国ネット」は永田町の「構想日本」事務所を借りて定例会を持っていますが、1月は常盤台に出張して、「ギャラリー服部」で行うことになりました。銅御殿・小石川植物園・狛江など各地の問題をじかに聞くことが出来、常盤台の街について外部の人の意見を聞ける良い機会です。ぜひ住民の皆さんのご参加をお待ちしています。

時 1月14日(土)

13時半～

所 「ギャラリー服部」

尚、これに先立ち常盤台の街歩きを希望者で行いますので、こちらにも気軽にご参加ください。12時半、駅北口集合です。

○ ロータリーコンサート 終わる

恒例の常盤台バプテスト教会聖歌隊のクリスマスキャロルが12月17日(日)夕方、駅前ロータリーで行われました。

ある人の感想では、駅前でのコンサートは、その街のメッセージとなっていて、とても好い感じだったということです。

次回は5月ごろの予定です。

○ 不法掲示物撤去員の登録

電柱そのものも街を汚くみせる元凶ですが、そこに書かれたり貼り付けられる広告が、どの街でも大変目障りなものとなっています。今年の登録は終わりましたが、どなたでも申し込みれば登録できます。来年ぜひ応募してみてください。

高齢化社会を迎えて

日本は世界に類を見ないスピードで高齢化社会に向かつており、あと何年か後には四人に一人が後期高齢者だとか。

そもそも高齢者と決め付けられるのも不愉快なことだと思いますが、前期と後期があるとは知りませんでした。その後は末期高齢者とか終期高齢者とかいわれるのでしょうか。

戦争に向かう時期には産めよ殖やせよといわれ、食糧難の時期には人口抑制と言われ、年金の担い手が少なくなるから少子化対策が叫ばれ、高齢者が邪魔者扱いされる・・・そんな国のやり方に振り回される人生で良いのでしょうか？

常盤台でも高齢化は着実に進んでいます。住宅地ではお年寄りだけの世帯もあるし、実は孤独死の例も幾つか出ています。商業地域では店の跡継ぎが苦労のようです。

戦前・戦中は隣組や国防婦人会や配給制度などでかなり密接なご近所づきあいがあつた常盤台も、戦後は個人主義に守られ、あまり近所には立ち入らないのが、かえって気楽で良いと思われてきました。今でもお隣が何の職業で、何人家族かも知らないでいるのはざらでしょう。

しかし、お屋敷まちで大家族だった昔はともかく、核家族が単位となり、敷地も狭くなりつつある今、新しくご近所との親しさが必要となってくると思われれます。災害時や病気の時などに、やはり「遠くの親戚より近くの他人」です。

これからは、付かず離れずの地域の人間関係を大事にしていききたいですね。

交通事故多し

元日というのに家の外がなんだか異様な雰囲気。出てみるとおまわりさんが交通整理しており、道のあちこちを巻尺で計っている。何かありましたかと聞いても検分中だからと言ってなかなか教えない。

やっと聞き出したのは、自動車と歩行者の接触事故で、怪我人はもう病院へ向かったとのこと。自分の家の前のことなのに、ほとんど何も分からない。

こんなことでいいのか、と憤慨していたら、同じような経験をしたという人がいて、常盤台は結構事故が多いのではないかと言う。車や自転車が増えればスピードを上げすぎている。昔はこんなではなかった。

登下校の子供たちのために

富士見小学校にお子さんが通っている人から電話があつた。景観を守る会は防犯については行動しないのか？と。

他にすることが多く、特に防犯活動はしていない旨答えると、パトロールしてくれるなら大通りではなく、人目に付かない、従って危険な横道や小路こそ見回って欲しいというご意見だつた。怪しい人物がいても警察はプライバシー保護のため、情報を提供してくれないとも。

確かに横丁や細い小路が危ないのかもしれない。子供たちの下校時間に合わせて、外を掃く、散歩に出る、買い物に行くなどを心がけてみてはどうだろうか。ほんの一案だが。

常盤台公園のはなづくり

私たちが公園と図書館の間の柵にバラを育てるようになったきっかけは、以前は雑草の蔦類に覆われるままで、大変見苦しかったからです。フェンスを隠す蔓の類で、きれいな花を咲かせるもの、と考えて、バラを這わせることにしたのです。あそこは北向きで、ほとんど日陰という、バラにとっては悪条件の場所でしたが、日陰に強い種類を選び、ダメモトで始めたのでした。今ではまあまあ花が楽しめるようになっています。

図書館から柵のさび止めとペンキの塗り直しの話が持ち上がりました。仲介役の公園課の人も来て、三月までという工期の打ち合わせをしました。柵にかぶさる部分のバラを、時期もよいので強剪定することになりましたが、仕事の速い（というより、せっかちな？）Ｔさん達のこと、十二月末には早くも準備完了となっています。

ペンキの色については今の色より濃くして目立たないよう希望しましたが、どうなるかは解らないという例のお役人の上に、Wさんが「それなら希望を聞く意味がない」と切れてしまいました。市民の意見の尊重はまだまだポーズだけで、すべて行政の都合が優先する体質を変えてほしいと思いました。

定例会一月十四日（土）二時

「ギャラリー服部」にて